

国立大学法人 三重大学

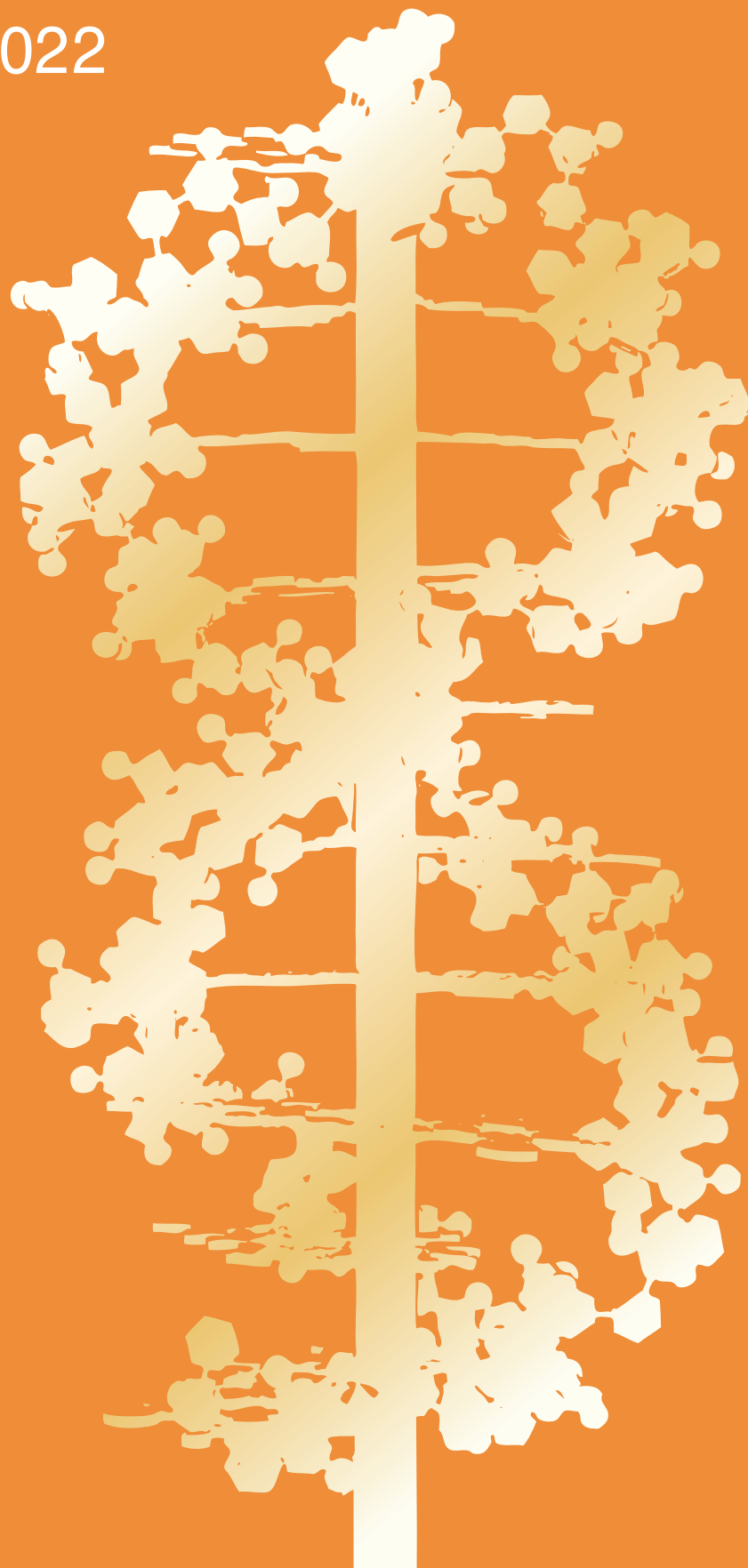
大学院 生物資源学研究科

Graduate School of Bioresources

生物資源学部

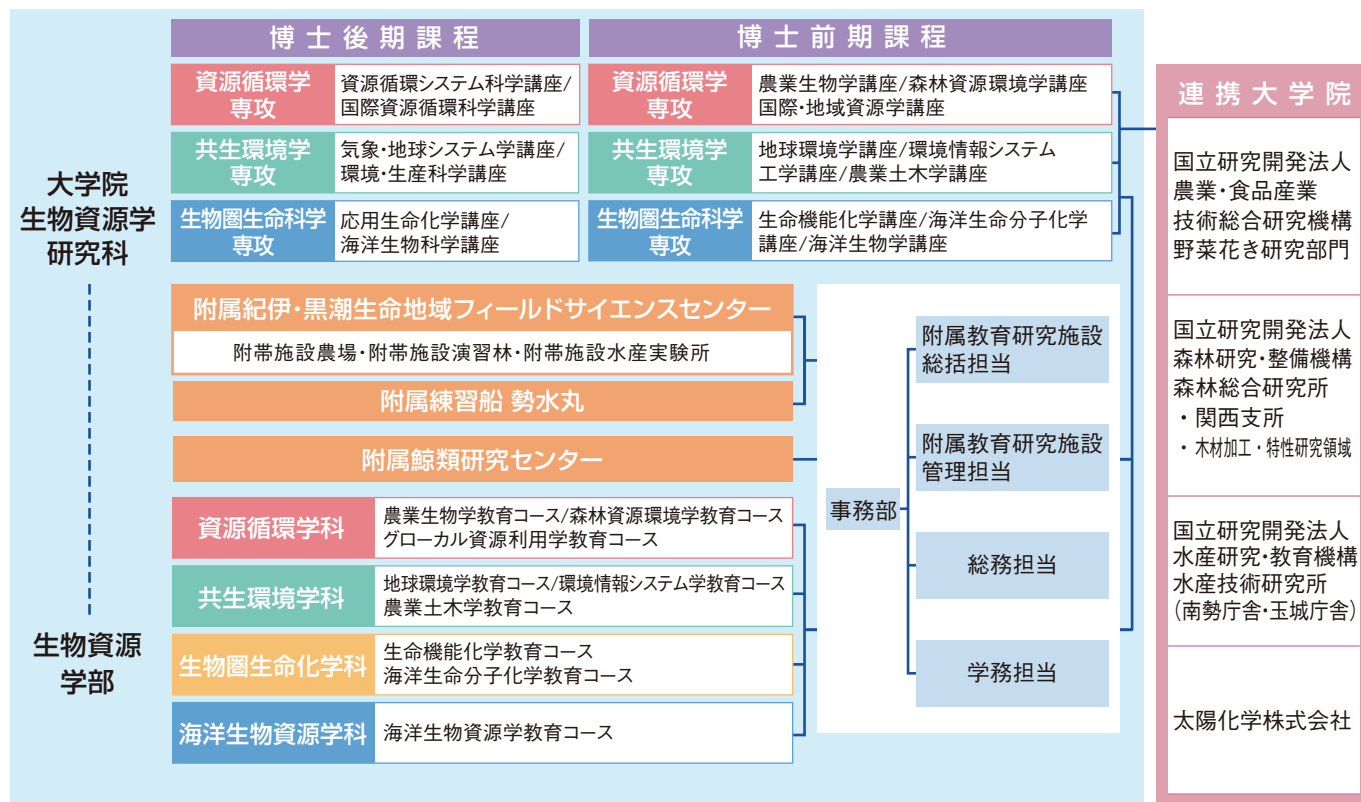
Faculty of Bioresources

2021-2022





機構



専攻・学部概要

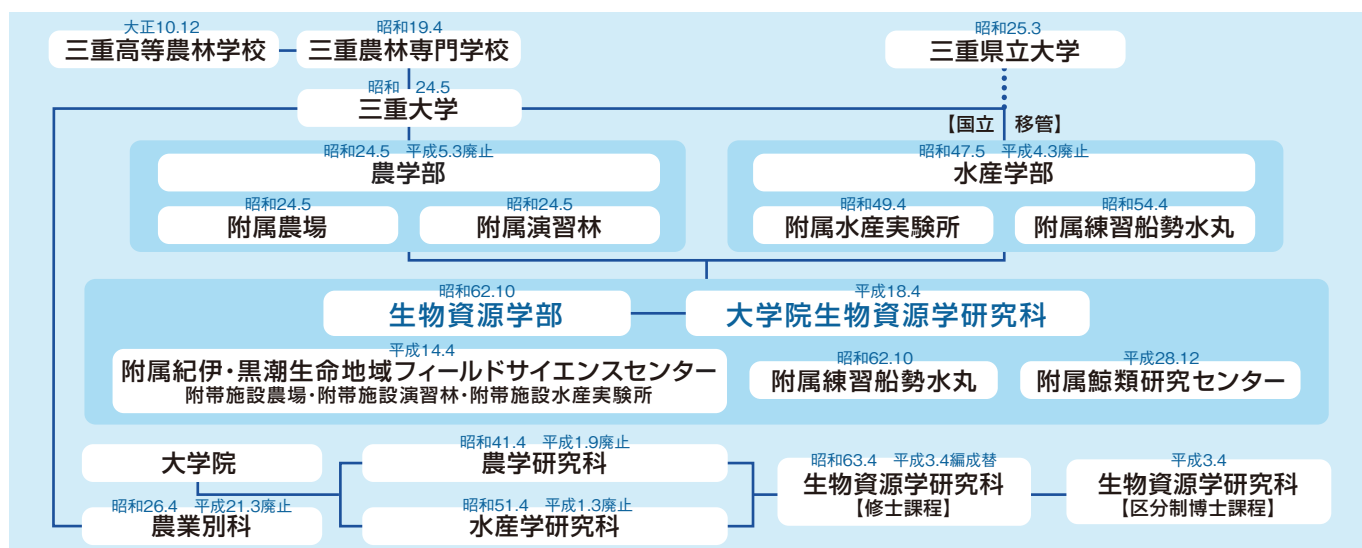
大学院生物資源学研究科

資源循環学専攻	持続的な社会の基盤としての生物資源を環境に配慮した方法で循環的に利用するための、技術の開発や新しい社会のデザインをすることができる人材を育成することにより、調和のとれた循環型社会の構築に貢献することを目指している。このため、本専攻では、生物の生命の仕組み、それらの生物を取り巻く環境、生物多様性についての学問を通して、生物資源の持続的利用に関する教育・研究を行う。
共生環境学専攻	多様な生態系からなる地球生命圏の環境を理解し、保全・修復しつつ、人間活動と生態系が調和する持続的な生物生産システムの構築を目指している。このため、本専攻では、陸圏・海洋圏・大気圏が複雑に連動する地球生態システムを対象に、地域から地球そのものというようなマルチスケールをカバーする気象学・環境科学・生態科学などの基礎科学とそれらと社会システムが共存し持続的な発展を図るための環境工学や農業工学などの応用学問に根ざした教育・研究を行う。
生物圏生命科学専攻	生命科学全般に関する基礎的学理及び海洋の資源生物の育成・保全・管理に関わる学問を構築し、実践的教育を通じてそれを学生に修得させることを目指している。このため、本専攻では、個々の学生が資源生物の生命現象に関する基礎理論を生態系、群集、個体群、個体、器官、細胞、分子レベルで理解するとともに、生物科学の研究に必要な研究技法を修得するための教育・研究を行う。

生物資源学部

資源循環学科	持続的な社会の基盤としての生物資源を環境に配慮した方法で循環的に利用するための、技術の開発や新しい社会のデザインをすることができる人材を育成することにより、調和のとれた循環型社会の構築に貢献することを目指している。
共生環境学科	多様な生態系でなりたつ地球生命圏の環境、陸圏、海洋圏、大気圏が連動する複雑な地球生態システムを現場レベルで理解し、数理的に紐解くことで、人類、生物と自然環境が共生できる生物生産システムと持続可能な社会の実現を目指している。
生物圏生命化学科	多様な生物の代謝・物質・機能を解析することを通して生命化学の分野における幅広い知識と応用力を有する人材を育成することにより、人類の健康増進及び農林水産業の発展に貢献することを目指している。
海洋生物資源学科	海洋環境や海洋生物資源を取り巻く様々な問題に対して多面的な視野からの解決能力を有する人材を育成し、豊かな社会の実現に貢献することを目指している。

沿革



役員

令和3年4月1日現在

役員	氏名	任期
研究科長〈兼務〉	奥村 克純	2021.4.1～2022.3.31
副研究科長(教育担当)〈兼務〉	神原 淳	2021.4.1～2022.3.31
副研究科長(研究担当)〈兼務〉	橋本 篤	2021.4.1～2022.3.31
研究科長補佐(企画・社会連携・広報担当)〈兼務〉	田丸 浩	2021.4.1～2022.3.31
研究科長補佐(学生担当)〈兼務〉	名田 和義	2021.4.1～2022.3.31
研究科長補佐(組織検討担当)〈兼務〉	渡邊 晋生	2021.4.1～2022.3.31
研究科長補佐(学部教育担当)〈兼務〉	岡島 賢治	2021.4.1～2022.3.31
評議員〈兼務〉	吉岡 基	2021.4.1～2022.3.31
附属鯨類研究センター長〈兼務〉	吉岡 基	2021.4.1～2023.3.31
資源循環学専攻長(資源循環学科長)〈兼務〉	掛田 克行	2021.4.1～2022.3.31
共生環境学専攻長(共生環境学科長)〈兼務〉	加治佐隆光	2021.4.1～2022.3.31
生物圏生命科学専攻長〈兼務〉	木村 哲哉	2021.4.1～2022.3.31
生物圏生命化学科長〈兼務〉	寺西 克倫	2021.4.1～2022.3.31
海洋生物資源学科長〈兼務〉	木村 妙子	2021.4.1～2022.3.31
附属紀伊・黒潮生命地域 フィールドサイエンスセンター長〈兼務〉	松村 直人	2021.4.1～2023.3.31
附属練習船勢水丸船長〈兼務〉	前川 陽一	2021.4.1～2023.3.31
生物資源学研究科事務長	研屋 元弘	2020.4.1～
附属教育研究施設事務室長	野呂 真稔	2020.4.1～

職員数^{〔現員〕}

令和3年6月1日現在

区分	現員
教授	50
准教授	39
講師	2
助教	14
一般職員	43
計	148

専攻組織

大学院生物資源学研究科 博士後期課程

令和3年4月1日現在

専攻	講座	教育研究分野
資源循環学	資源循環システム科学	食料生産科学、森林資源環境学
	国際資源循環科学	国際資源循環科学
共生環境学	気象・地球システム学	大気海洋地球学、流域環境創成学、地球環境解析学
	環境・生産科学	環境情報システム工学、地域保全工学、生態系循環システム学
生物圏生命科学	応用生命化学	生命機能化学、海洋生命分子化学
	海洋生物科学	海洋生物学

資源循環学専攻(資源循環学科)

*大学院は地域イノベーション学研究所所属

講座 [大講座]	教育研究分野	職名／氏名
農業生物学	分子遺伝育種学	教授 掛田 克行 [教授 諏訪部 圭太]*
	資源作物学	教授 梅崎 輝尚 教授 長 菅 輝義 准教授 長 屋 祐一
	園芸植物機能学	教授 奥田 均 教授 名田 和義
	動物生産学	教授 松井 宏樹 准教授 伴 智美
	草地・飼料生産学	准教授 近藤 誠
	植物医科学	教授 中島 千晴 准教授 白水 貴
	昆虫生態学	教授 塚田 森生
森林資源学 環境学	森林保全生態学	教授 木佐貫 博光 准教授 鳥丸 猛
	森林微生物学	教授 松田 陽介 助教 北上 雄大
	土壤圏生物機能学	准教授 水野 隆文
	森林環境砂防学	教授 堤 大三 准教授 沼本 晋也
	森林利用学	教授 石川 知明 准教授 板谷 明美
	木質資源工学	教授 中井 毅尚 准教授 洲上 佑樹 助教 内迫 貴幸
	木質分子素材制御学	教授 野中 寛
国際・地域 資源学	緑環境計画学	教授 松村 直人 講師 松尾 奈緒子
	生物資源経済学	准教授 中島 亨
	循環経営社会学	准教授 野中 章久
	資源経済システム学	教授 常 清秀
	国際資源植物学	教授 関谷 信人
	国際資源利用学	准教授 吉原 佑

共生環境学専攻(共生環境学科)

地域創生戦略企画室 *学部は教養教育院所属

講座 [大講座]	教育研究分野	職名／氏名
地球環境学	気象・気候ダイナミクス	教授 立花 義裕
	気象解析予測学	准教授 西井 和晃
	海洋気候学	准教授 山田 二久次
	未来海洋予測学	准教授 万田 敦昌
	フューチャー・アース学	教授 飯島 慈裕
	地球システム進化学	[教授 坂本 竜彦]**
	水環境・自然災害科学	教授 葛葉 泰久
環境情報 システム工学	環境解析学	[教授 大野 研]***
	応用環境情報学	准教授 福島 崇志 助教 滝沢 憲治
	生産環境システム学	教授 陳山 鵬 助教 山下 光司
	生物環境制御学	教授 村上 克介
	エネルギー利用工学	教授 王 秀崙
農業土木学	フードシステム学	教授 森尾 吉成 助教 内藤 啓貴
	応用地形学	准教授 森本 英嗣
	土資源工学	教授 酒井 俊典
	水資源工学	教授 加治佐 隆光 准教授 近藤 雅秋 助教 伊藤 良栄
	環境施設工学	教授 岡島 賢治
	国際環境保全学	教授 保世院 座狩屋
	土壌圏システム学	教授 渡邊 晋生
	土壌圏循環学	教授 取出 伸夫 講師 坂井 勝

講座 [大講座]	教育研究分野	職名／氏名	
生命機能化学 (生物圏生命化学科)	分子細胞生物学	教 授 奥 村 克 純	准教授 竹 林 慎一郎
	分子生物情報学	准教授 三 宅 英 雄	
	生 理 活 性 化 学	教 授 稲 垣 穰	
	創 薬 化 学	准教授 増 田 裕 一	
	生 物 機 能 化 学	准教授 勝 崎 裕 隆	准教授 岡 咲 洋 三
	生物制御生化学	教 授 寺 西 克 倫	
	食品生物情報工学	教 授 橋 本 篤	[教 授 末 原 憲一郎]*
	食 品 化 学	准教授 磯 野 直 人	准教授 三 島 隆
	微 生 物 遺 伝 学	教 授 木 村 哲 哉	助 教 國 武 絵 美
	栄 養 化 学	准教授 西 尾 昌 洋	助 教 栗 谷 健 志
海 洋 生 命 分 子 化 学 (生物圏生命化学科)	食 品 発 酵 学	教 授 苅 田 修 一	准教授 梅 川 碧 里
	海 洋 生 物 化 学	教 授 柿 沼 誠	助 教 五十嵐 洋 治
	水圏生物利用学	教 授 田 丸 浩	
	水圏材料分子化学	准教授 伊 藤 智 広	
	生 物 物 性 学	[教 授 大 井 淳 史]**	
	生体高分子化学	教 授 船 原 大 輔	
	海 洋 微 生 物 学	教 授 福 崎 智 司	准教授 田 中 礼 士
	水産物品質学	教 授 青 木 恭 彦	准教授 岡 崎 文 美
海 洋 生 物 学 (海洋生物資源学科)	海 洋 食 糧 化 学	准教授 柴 田 敏 行	
	生 物 海 洋 学	教 授 石 川 輝	助 教 田 口 和 典
	水 族 生 理 学	教 授 神 原 淳	准教授 宮 崎 多恵子
	藻 類 学	准教授 倉 島 彰	
	浅 海 増 殖 学	教 授 松 田 浩 一	准教授 筒 井 直 昭 助 教 山 本 康 介
	先端養殖管理学	教 授 一 色 正	
	魚 類 増 殖 学	教 授 吉 岡 基	准教授 淀 太 我 准教授 森 阪 匡 通 助 教 船 坂 徳 子
	海 洋 生 態 学	教 授 木 村 妙 子	
	水圏資源生物学	教 授 古 丸 明	助 教 伯 耆 匠 二
	水圏分子生態学	教 授 河 村 功 一	
	海洋個体群動態学	教 授 原 田 泰 志	准教授 金 岩 稔
	応 用 行 動 学	准教授 森 川 由 隆	
附 属 教 育 研 究 施 設 等	水産応用情報学	准教授 岡 辺 拓 巳	
	職名／氏名		
	附 帯 施 設 農 場	教 授 長 菅 輝 義	教 授 奥 田 均 准教授 三 島 隆
	附 帯 施 設 演 習 林	准教授 沼 本 晋 也	准教授 洲 上 佑 樹
	附 帯 施 設 水 産 実 験 所	教 授 松 田 浩 一	准教授 岡 辺 拓 巳 助 教 山 本 康 介
	附 属 練 習 船 勢 水 丸	准教授 (船 長) 前 川 陽 一	助 教 (一 等 航 海 士) 中 村 亨
	附 属 鯨 類 研 究 セ ン タ ー	准教授 森 阪 匡 通	
	特任教員 特任教授 栗 冠 和 郎 特任准教授 Thalagala Arachchige Tharanga Piyamali Thalagara		
	特任准教授 Jagath Siri Kularatne 特任助教 生 野 彰 宏		
	令和3年8月1日現在		
	資源循環学専攻		
	講座 [大講座]	連携機関	教育研究分野
	農業生物学	農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門	野菜ゲノム育種学
	森林資源環境学	森林総合研究所関西支所	自然共生学
		森林総合研究所木材加工・特性研究領域	木質資源工学
	職名／氏名		
	連携教授 飯田 博之・布目 司 連携准教授 川頭 洋一・柿崎 智博		
	連携教授 神崎 菜摘 連携准教授 小笠 真由美		
	連携教授 安部 久 連携准教授 藤本 清彦・杉山 真樹・鳥羽 景介		
	生物圏生命科学専攻		
	生命機能化学	太陽化学株式会社	食 品 機 能 学
	海洋生物学	水産研究・教育機構水産技術研究所	発 生 ・ 代 謝 機 能 解 析 学
	連携教授 大久保 勉・小関 誠		
	連携教授 正岡 哲治 連携准教授 宇治 督・村下 幸司		

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター	附 帯 施 設 農 場	教 授 長 菅 輝 義	教 授 奥 田 均	准教授 三 島 隆
	附 帯 施 設 演 習 林	准教授 沼 本 晋 也	准教授 洲 上 佑 樹	
	附 帯 施 設 水 産 実 験 所	教 授 松 田 浩 一	准教授 岡 辺 拓 巳	助 教 山 本 康 介
附属練習船勢水丸		准教授 (船 長) 前 川 陽 一	助 教 (一 等 航 海 士) 中 村 亨	
附属鯨類研究センター		准教授 森 阪 匡 通		

特任教員

特任教授 栗 冠 和 郎 特任准教授 Thalagala Arachchige Tharanga Piyamali Thalagara

特任准教授 Jagath Siri Kularatne 特任助教 生 野 彰 宏

連携大学院

令和3年8月1日現在

講座 [大講座]	連携機関	教育研究分野	職名／氏名
農業生物学	農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門	野菜ゲノム育種学	連携教授 飯田 博之・布目 司 連携准教授 川頭 洋一・柿崎 智博
森林資源環境学	森林総合研究所関西支所	自然共生学	連携教授 神崎 菜摘 連携准教授 小笠 真由美
	森林総合研究所木材加工・特性研究領域	木質資源工学	連携教授 安部 久 連携准教授 藤本 清彦・杉山 真樹・鳥羽 景介
生物圏生命科学専攻			
生命機能化学	太陽化学株式会社	食 品 機 能 学	連携教授 大久保 勉・小関 誠
海洋生物学	水産研究・教育機構水産技術研究所	発 生 ・ 代 謝 機 能 解 析 学	連携教授 正岡 哲治 連携准教授 宇治 督・村下 幸司



7 学生数【定員・現員】

令和3年5月1日現在

学 部 等		1 年				2 年				3 年				4 年				計			
		定員	現 員			定員	現 員			定員	現 員			定員	現 員			定員	現 員		
			男	女	計		男	女	計		男	女	計		男	女	計		男	女	計
生 物 資 源 学 部	資源循環学科	70	43	32	75	70	37	35	72	73 (3)	44	29	73	73 (3)	47	31	78	286 (6)	171	127	298
	共生環境学科	70	51	21	72	70	49	23	72	73 (3)	55	22	77	73 (3)	67	18	85	286 (6)	222	84	306
	生物圏生命化学科	80	32	51	83	80	32	49	81	82 (2)	35	51	86	82 (2)	43	46	89	324 (4)	142	197	339
	海洋生物資源学科	40	29	13	42	40	29	12	41	42 (2)	28	13	41	42 (2)	30	14	44	160 (4)	116	52	168
	計	260	155	117	272	260	147	119	266	270 (10)	162	115	277	270 (10)	187	109	296	1060 (20)	651	460	1,111
大 学 院 生 物 資 源 学 研 究 科	博士前期課程	88	52	36	88	88	45	20	65									176	97	56	153
	博士後期課程	12	9	6	15	12	6	3	9	12	6	4	10					36	21	13	34

() 内は、3年次編入学定員を内数で示す。



8 卒業・修了者数

令和3年3月31日現在

区 分	学 部 等	期間 (年度)	卒業・修了者 (名)
専門学校 (旧制)	三重高等農林学校	1924～1942	1,931
	三重農林専門学校	1944～1951	1,627
大 学 (新制)	三重大学農学部	1952～1992	6,978
	三重県立大学水産学部	1953～1974	995
	三重大学水産学部	1975～1992	944
	三重大学生物資源学部	1991～2020	8,120
大学院	大学院農学研究科 (修士課程)	1967～1988	378
	大学院水産学研究科 (修士課程)	1977～1988	107
	大学院生物資源学研究科 (修士課程)	1989～1992	152
	博士前期課程	1992～2020	2,784
	博士後期課程	1993～2020	431(課程334,論文97)
別 科	農業別科	1951～2008	609



9 卒業・修了後の進路状況 (令和2年度)

令和3年5月1日現在

学 部	学科等	卒業者	就 職				進学者	その他	就職先	
			企 業	官公庁	教 員	その他			県 内	県 外
生 物 資 源 学 部	資源循環学科	72 (38)	28 (15)	20 (14)	1 (0)	0 (0)	21 (9)	2 (0)	9 (7)	40 (22)
	共生環境学科	75 (24)	33 (12)	18 (6)	1 (0)	0 (0)	20 (6)	3 (0)	7 (2)	45 (16)
	生物圏生命科学科	4 (3)	3 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (2)
	生物圏生命化学科	78 (52)	47 (39)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	26 (11)	1 (0)	9 (7)	42 (34)
	海洋生物資源学科	39 (12)	9 (2)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (8)	3 (2)	1 (1)	11 (1)
計		268 (129)	120 (70)	46 (23)	2 (0)	0 (0)	91 (34)	9 (2)	27 (18)	141 (75)
大学院生物資源学 研 究 科	博士前期課程	75 (18)	53 (13)	5 (1)	1 (0)	0 (0)	8 (2)	8 (2)	7 (1)	52 (13)
	博士後期課程	15 (8)	7 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (4)	3 (1)	5 (3)
計		90 (26)	60 (16)	6 (2)	1 (0)	0 (0)	8 (2)	15 (6)	10 (2)	57 (16)

() 内は、女子学生数を内数で示す。

10 留学生数

令和3年5月1日現在

区 分		中国	インドネシア	バングラデシュ	エジプト	マレーシア	タンザニア	韓国	その他※1	計	
生 物 資 源 学	1年									0	
	2年							1		1	
	3年									0	
	4年									0	
	研究生	5								5	
	特別聴講学生									0	
大学院 生 物 資 源 学 研 究 科	博士 前期 課程	1年	1	1		1			4	8	
		2年	4		1			2		1	8
		研究生	1								1
		特別研究学生									0
		特別聴講学生									0
	博士 後期 課程	1年		2		1	1			3	7
		2年	3		1						4
		3年	2	1							3
		研究生									0
	特別研究学生									0	
計		16	4	2	2	2	2	1	8	37	

※1 ソロモン諸島、フィリピン、東ティモール、バヌアツ、ラオス、バプアニューギニア、モザンビーク、ケニア

11 奨学生数（日本学生支援機構）

令和3年3月31日現在

区 分		1年	2年	3年	4年	1年		2年		3年		4年		計		
		給付	給付	給付	給付	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	給付	一種	二種
生物資源学部		23	24	32	27	40	31	34	32	45	33	38	23	106	157	119
大学院生物資源学研究科	博士前期					19	1	28	1						47	2
	博士後期					3	0	0	0	2	0				5	0

※給付奨学生数は旧制度、新制度の数の合計。

12 生物資源学部奨学金制度

渡邊文二奨学金

平成16年度に畜産物の飼育や加工、販売、飼料研究などを手掛ける「三昌物産株式会社」創設者である故渡邊文二氏からの寄付金を基に設立された、三重大学としては初めての独自奨学金制度です。本奨学金制度の特徴として返還の必要がなく、2年間にわたり給付されます。また、他の奨学団体から給付を受けている場合（応募している場合）でも応募できます。

給付年額	480,000円
給付期間	2年間
対 象	学部3年次の学生で経済的理由により、就学が困難である者 将来、三重県内で畜産、食品、水産および農業の事業に携わる見込みがある者
給付人数	2人
募集時期	4月初旬～末

朝日土木株式会社奨学金

平成26年度に総合建設業、建設副産物のリサイクル事業などを手掛ける「朝日土木株式会社」からの寄付金を基に設立された、独自奨学金制度です。本奨学金制度の特徴として外国人留学生を対象とし、返還の必要がなく、2年間にわたり給付されます。また、他の奨学団体から給付を受けている場合（応募している場合）でも応募できます。

給付年額	600,000円
給付期間	2年間
対 象	博士前期課程1年次の外国人留学生で経済的理由により、就学が困難である者 将来、農業並びに土木の研究又は事業に携わる見込みのある者
給付人数	1人（隔年で募集）
募集時期	4月初旬～末

13 国際交流

大学間協定 令和3年6月1日現在

大学名	国・地域名	大学名	国・地域名
江蘇大学	中国	IPB大学	インドネシア
廣西大学	中国	スリウィジャヤ大学	インドネシア
江南大学	中国	ハルオレオ大学	インドネシア
南京工業大学	中国	パジャジャラン大学	インドネシア
上海海洋大学	中国	ブトラマレーシア大学	マレーシア
安徽農業大学	中国	トレンガヌ大学	マレーシア
済州大学	韓国	カントー大学	ベトナム
中山大学	台湾	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ
国立台湾海洋大学	台湾	フィジー国立大学	フィジー
カセサート大学	タイ	南太平洋大学	フィジー
スラナリー工科大学	タイ	国立ラ・モリーナ農業大学	ペルー
タマサート大学	タイ	ザンビア大学	ザンビア
メジョー大学	タイ		

学部間協定

大学名	国名	大学名	国名
釜慶国立大学校	韓国	パテイン大学	ミャンマー
モンクット王トンプリ工科大学	タイ	セントラルルソン大学	フィリピン
ゲント大学	ベルギー		

14 連携協定

協定先	締結日
独立行政法人土木研究所地質・地盤研究グループ	平成26年7月1日
公益財団法人名古屋みなと振興財団名古屋港水族館	平成27年12月17日
独立行政法人水資源機構中部支社	平成28年5月30日
農林水産省東海農政局農村振興部	平成28年10月18日
株式会社鳥羽水族館	平成30年4月20日
三重県農林水産部「みえ森林・林業アカデミー」	平成30年12月11日
一般社団法人農業土木事業協会	平成31年3月19日
三重県農林水産部「みえ生物多様性パートナーシップ協定」 カワバタモロコの保護に関する協定	平成31年3月28日
三重県農林水産部「みえ生物多様性パートナーシップ協定」 鳥類繁殖場の保全に関する協定	令和2年6月10日
ミキモトグループ	令和2年11月9日
三重県における海洋DX研究開発・導入の促進に係る産学官連携協定	令和3年3月16日

15 学術刊行物

刊行物名	発行部数	発行回数
三重大学大学院生物資源学研究所紀要	800	年1回
三重大学フィールド研究・技術年報	300	年1回

16 公開講座(令和元年度)

講座名	実施日	募集人数	受講対象者
驚きの生命機能の チカラとその制御	10月26日(土)～ 10月27日(日)	50名	市民一般 (高校生以上)

17 研究経費

科学研究費助成事業(科研費)採択状況(単位:千円)

令和3年3月31日現在

種 目	平成28年度(2016)		平成29年度(2017)		平成30年度(2018)		令和元年度(2019)		令和2年度(2020)	
	件数	交付金額	件数	交付金額	件数	交付金額	件数	交付金額	件数	交付金額
新学術領域研究					1	1,600	2	18,100	2	28,500
基盤研究(A)			1	6,100			1	8,700	1	9,200
基盤研究(B)	4	12,400	5	21,400	6	21,400	8	31,600	11	45,200
基盤研究(C)	25	29,100	28	35,500	33	36,600	33	34,400	32	36,000
挑戦的研究(開拓)					1	5,400	1	9,000	1	4,400
挑戦的研究(萌芽) (挑戦的萌芽研究を含む)	7	8,300	8	9,800	6	11,500	5	9,000	4	5,100
若手研究(A)			1	1,300	1	1,800	1	1,800	1	1,100
若手研究 (若手研究(B)を含む)	2	1,400			3	2,400	5	6,000	5	4,600
研究活動スタート支援			1	1,100	2	1,900				
研究成果公開促進費										
特別研究員奨励費	2	2,100	2	2,300	3	2,700	4	3,600	2	1,900
合 計	40	53,300	46	77,500	56	85,300	60	122,200	59	136,000

共同研究受入状況(単位:千円)

令和3年3月31日現在

	平成28年度(2016)	平成29年度(2017)	平成30年度(2018)	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)
件数	63	81	112	117	98
金額	57,317	47,387	77,010	66,566	63,170

受託研究受入状況(単位:千円)

令和3年3月31日現在

	平成28年度(2016)	平成29年度(2017)	平成30年度(2018)	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)
件数	42	40	45	44	48
金額	96,965	89,818	94,023	98,124	126,083

寄附金受入状況(単位:千円)

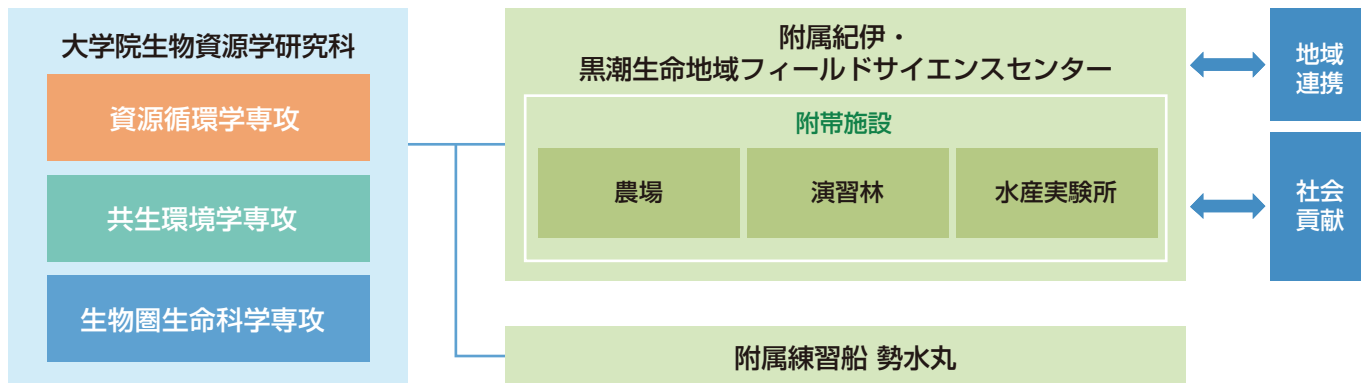
令和3年3月31日現在

	平成28年度(2016)	平成29年度(2017)	平成30年度(2018)	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)
件数	48	49	58	62	56
金額	37,159	39,784	41,182	40,415	27,384

18 附属紀伊・黒潮生命地域 フィールドサイエンスセンター

紀伊半島全域と黒潮流域に広がる山から海までの生態系を対象に、人間と自然との共存を目指す総合科学の実習教育・研究施設。

フィールドサイエンスセンターの位置付け



附帯施設農場

本学の北西約9.5kmに位置し、水田、畑、果樹園、ガラス室、茶園、畜舎、農産加工室などからなる総合農場で、35haの面積を占める。学部学生の実習教育の他に、共通教育のセミナー、所属教員及びその他の研究科教員と専攻学生のフィールド研究の場としても利用されている。



農場全景

附帯施設演習林

三重県のほぼ中央を東へ流れる雲出川の最上流源地帯を構成する1団地で、本学部の南西約60kmに位置している。総面積457haの約6割を占める天然生林は、紀伊半島北部の代表的自然植生を示し、学術上貴重である。林内には管理・宿泊施設があり、森林に関する研究・実習に学内外者に広く利用されている。



演習林管理・学生宿泊施設

附帯施設水産実験所

豊かな生態系を有する伊勢湾口部に位置する水産実験所は、プランクトン、海藻類、無脊椎動物、魚類等多様な海洋生物を用いた学生実習や教員・大学院生の研究に利用されている。また、海洋生物の資源生態学的研究や、水産に関する情報科学、水産資源の有効活用に関する研究等が行われ、実験所独自の研究も活発に進められている。



水産実験所全景

19 附属練習船勢水丸

研究科・学部の洋上における教育及び研究を行うための附属施設であって、学部学生の実習並びに教員・学生の調査研究に利用される。平成21年1月、新たな観測設備、推進システムを搭載した代船として建造され、運航している。



船名	勢水丸	主推進電動機	出力1000kW
総トン数	318トン	航海速度	12.0ノット
国際総トン数	491トン	航続距離	3500海里
長さ(全長)	50.90m	定員	44名
幅(型)	8.60m	建造年月日	平成21年1月30日
深さ(型)	3.75m	建造所	三菱重工業(株) 下関造船所

20 附属鯨類 研究センター

平成28年12月、重要な海洋生物資源としてさまざまな形で利用されている鯨類を持続的に利用するための研究を行うために設置された研究組織である。現在、生理学・生化学的実験を行う実験室が総合研究棟Ⅱ内に設置されている。



21 三翠会館

昭和11年8月建築された上浜地区に残る一番古い建物である。三重高等農林学校の卒業生から寄付を受け、非常勤講師の宿泊施設として利用されていた。平成14年2月に登録文化財に指定され、また、同年3月に改修を行い、現在は会議や教職員の福利厚生施設として利用されている。

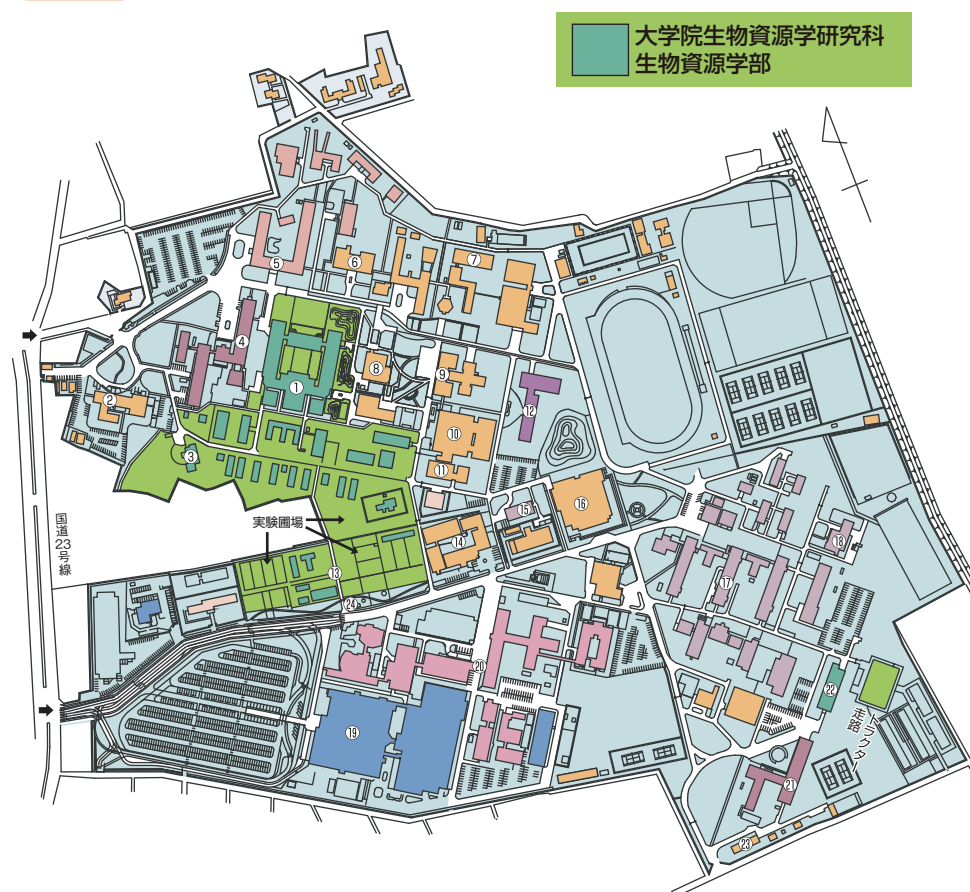


22 不渴の井戸

この井戸は、本研究科の前身である三重高等農林学校が現在地に設置された際に低湿地、塩害地であった土地を改良するために教官と学生が協力して大正13年に築いたものであり、現在も実験圃場への灌漑設備として活用されている。平成28年度には、公益財団法人土木学会が行う選奨土木遺産に選出された。



23 学内配置図



1. 生物資源学部校舎
2. 事務局
3. 三翠会館
4. 総合研究棟Ⅱ
(学務部、国際交流センター、
保健管理センター)
5. 教育学部校舎
6. 教育学部附属教職支援センター
7. 教養教育校舎
8. 翠陵会館
9. 環境・情報科学館
10. 情報ライブラリーセンター(図書館)
11. 総合情報処理センター
12. 人文学部校舎
13. 生物資源学部実験水槽群
14. 地域イノベーション学研究科
地域イノベーション研究開発拠点
15. オープンイノベーション施設
16. 講堂(三翠ホール)
17. 工学部校舎
18. 卓越型研究施設
19. 医学部附属病院
20. 医学部校舎
21. 総合研究棟Ⅰ
22. 水産製造実験工場
23. レーモンドホール
24. 不渴の井戸

24 土地・建物

令和3年5月1日現在

区 分	土 地	建 物
生物資源学部	〈528,040㎡〉	32,529㎡
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター		
附帯施設農場	353,179㎡	8,300㎡
附帯施設演習林	4,569,562㎡	1,421㎡
附帯施設水産実験所	1,298㎡	356㎡
附属練習船基地	1,356㎡	574㎡

〈 〉：上浜地区の面積

25 所在地

名 称	郵便番号	住 所	電話番号	FAX番号
大学院生物資源学研究科 生物資源学部	514-8507	津市栗真町屋町1577	059-231-9626	059-231-9634
附属紀伊・黒潮生命地域 フィールドサイエンスセンター	514-2221	津市高野尾町2072-2	059-230-0044	059-230-1463
附帯施設農場	514-2221	津市高野尾町2072-2	059-230-0044	059-230-1463
附帯施設演習林	515-3532	津市美杉町川上2735	059-274-0135	059-274-1171
附帯施設水産実験所	517-0015	鳥羽市小浜町641-9	0599-37-7310	0599-37-7311
附属練習船勢水丸		(松阪港停泊時) (船舶電話)	0598-50-1066 090-3022-8767	0598-50-1066 03-6888-6079
附属練習船基地	515-0001	松阪市大口町字築地1819-18	0598-51-0710	0598-51-8849
附属鯨類研究センター	514-8507	津市栗真町屋町1577	059-231-6979	—

26 アクセス

■ 本学部への交通案内

近鉄電車「急行」で

名古屋より	近鉄名古屋駅	約60分	江戸橋駅	徒歩約15分
京都・大阪より	伊勢中川駅	約15分		

近鉄電車「特急」で

名古屋より	近鉄名古屋駅	約50分	津	バス約15分
大阪より	近鉄難波駅	約90分	津	タクシー約10分
京都より	京都駅	約110分	津	

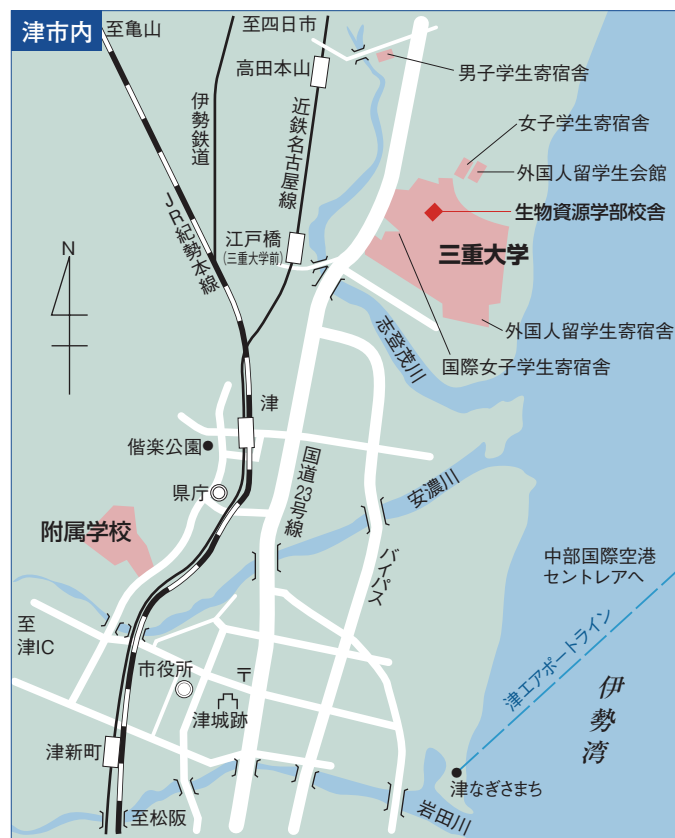
三
重
大
学

- ① 津駅東口バスのりばから三重交通バスで約15分
「4番」のりばより「白塚駅」、「棕本」、「豊が丘」、「サイエンスシティ」、
「三重病院」、「東豊野」、「高田高校前」行きに乗車、「三重大学」で下車
- ② 津駅前からタクシーで約10分

- 近鉄江戸橋駅（三重大学前）から徒歩で約15分

- 中部国際空港（セントレア）から津エアポートラインで「津なぎさまち」へ45分

- ① 「津なぎさまち」から三重交通バスで「津駅前」まで約15分
「津駅前」で乗り換え「三重大学前」まで約15分
- ② 「津なぎさまち」からタクシーで約15分





国立大学法人 三重大学
大学院 生物資源学研究科・
生物資源学部

〒514-8507
三重県津市栗真町屋町1577
TEL.059-231-9626
FAX.059-231-9634
www.bio.mie-u.ac.jp
2021年8月発行